

GRADUATE SCHOOL OF
URBAN SOCIAL
AND CULTURAL
STUDIES

横浜市立大学大学院
**都市社会文化
研究科**



GUIDE BOOK 2025

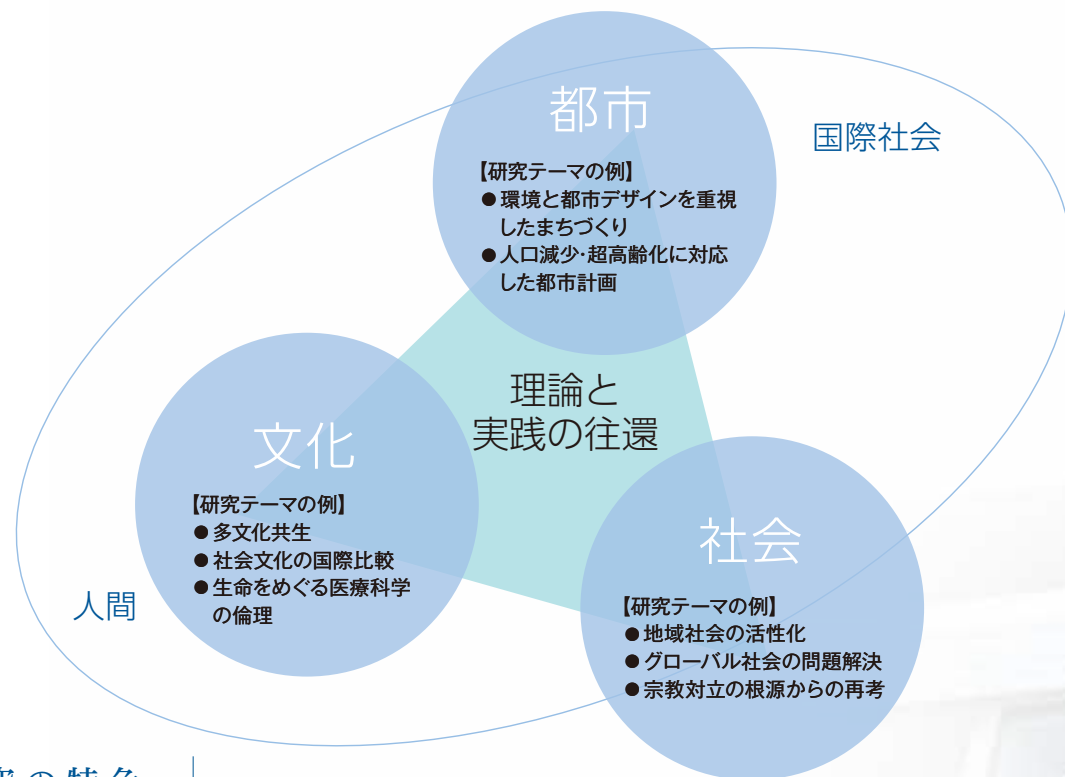
YCU
横浜市立大学

本 研 究 科 の 研 究 と は

主要な研究領域である「都市」「社会」「文化」それぞれの研究ディシプリンを身に付けられる研究科です。また、それらの学際的融合領域に、人間から国際社会まで対象のスケールを問わず、「理論と実践を往還」しながら取り組むことができます。

研究科の理念

人間や国際社会に対する深い理解に基づく、
現代都市社会の問題解決と新たな理念の創出



研究の特色

様々な社会問題・研究課題に対して、学際的なアプローチによって取り組んでいます。

研究 テーマの例

- ・環境と都市デザインを重視したまちづくり
- ・人口減少・超高齢化に対応した都市計画
- ・地域社会の活性化
- ・グローバル社会の問題解決
- ・多文化共生
- ・社会文化の国際比較
- ・生命をめぐる医療科学の倫理

都市社会文化研究科のあゆみ

- 1949 (昭和24)年 新制大学として横浜市立大学設置
- 1993 (平成5)年 大学院国際文化研究科(博士前期課程)設置
- 1996 (平成8)年 大学院国際文化研究科(博士後期課程)設置
- 2005 (平成17)年 大学法人化(公立大学法人横浜市立大学発足)
大学院国際総合科学研究科 設置(国際文化研究科、経営学研究科、経済学研究科、理学研究科を統合)
- 2009 (平成21)年 大学院国際総合科学研究科を再編し、都市社会文化研究科を設置(生命ナノシステム科学研究科、国際マネジメント研究科を同時に設置)

都市社会文化研究科のめざすもの

都市社会文化研究科は、国際都市横浜の公立大学に相応しい大学院として2009(平成21)年4月に開設されました。前身の国際文化研究科、国際総合科学研究科国際文化研究専攻の時期から通算すると、すでに4半世紀の実績を持ち、多くの院生を社会に送り出してきました。

本研究科は、急速に変化する現代社会の諸問題について、都市・地域・国際社会の課題を中心に、人間と文化に対する深い理解から得た着眼点を踏まえて実践的に取り組むことのできる人材の育成を目指しています。

ICT(情報通信技術)は世界を瞬時につなげ、AI(人工知能)やDX(デジタルトランスフォーメーション)は、グローバル化とともに、これまでの人間観を大きく変えました。現代の都市社会に生起する複雑な課題に対し、構造的に掘り下げて把握し、長期的展望をもって解決の方向を見出すためには、特定の専門分野を踏まえた上で、その枠を超えた領域横断的・学

際的アプローチが求められます。また、具体的・現実的課題に取り組むにあたっては、人文科学の学問成果による人間の洞察にもとづく課題の検証や、課題の意味を解釈するための着眼点が必要となります。

本研究科は、このような理念のもと、現代社会におけるさまざまな課題について、学術的な観点による課題解決や問題の解釈を可能とする、多分野融合型の教育・研究体制を備えている点が大きな特徴です。

また、社会人の積極的な受け入れに取り組むとともに、地域社会における課題解決の実践力や問題意識を高めるための、産学官や地域社会と連携した教育プログラムや、学際性豊かな研究会を開催し、院生と教員、ゲスト講師との活発な研究交流を図っています。

本研究科の理念を共有し、広い視野と柔軟な思考力をもつ意欲あふれる学生のチャレンジを期待しております。

都市社会文化研究科長 松本 郁代



MM21地区



横浜中華街



横浜市立大学所蔵「再改横浜風景」

教育の特色

- 多分野融合型のカリキュラム編成
- 地域社会との連携
- 社会人の積極的受け入れ

【入学定員と学位】

	入学定員	学位
博士前期課程	20名	修士(学術)
博士後期課程	3名	博士(学術)

【カリキュラム構成と修了要件】

博士前期課程	次のような科目群によって構成され、2年間で合計30単位取得して修了します。	
	総合研究科目(2単位)	学外講師を招聘し、実践的関心の喚起を図る科目
	特講科目(16単位)	専門性を深める講義科目
	演習科目(8単位)	修士論文作成に向けた研究指導を行う演習科目
	修士論文(4単位)	修士論文の提出により単位を取得
* なお、社会人学生を対象に、演習・修士論文の代わりに特別研究・研究報告書によって修了する方式もあります。		
博士後期課程	次の科目群から3年間で合計20単位取得し、博士論文審査を経て修了します。	
	多分野交流演習(2単位)	総合的・学際的視点の獲得を図る演習科目
	攻究科目(6単位)	各分野の専門性を深めるための講義科目
	演習科目(12単位)	博士論文作成に向けた研究指導を行う演習科目

履修のイメージ

目的や研究上の関心に応じた授業科目の組み合わせが可能です。下記は博士前期課程での履修例です(科目名一覧は6ページ)。

グローバルキャリアをめざして学ぶ場合

- 総合研究科目(2単位)
総合研究科目:1
- 特講科目(16単位)
社会文化論特講:1(アジア文化論)、5(文化人類学)／海外地域論特講:2(アジア地域論)、3(アジア社会史)、4(イスラム地域論)／国際関係論特講:1(グローバル政治論)、2(グローバル経済論)、4(途上国開発論)

社会福祉を学び、研究報告書で修了する場合

- 総合研究科目(2単位)
総合研究科目:3
- 特講科目(20単位)
人間科学論特講:2(教育心理学)、3(発達心理学)、4(現代哲学)／言語文化論特講:1(コミュニケーション論)／都市・環境政策論特講:2(地域ガバナンス論)、5(地方自治論)／地域社会論特講:3(教育行政論)、4(メディア社会論)、6(社会理論)／社会経済論特講:1(NPO論)

まちづくりを学ぶ場合

- 総合研究科目(2単位)
総合研究科目:1
- 特講科目(16単位)
まちづくり論特講:1(都市計画論)、3(市民まちづくり論)、5(防災まちづくり論)、6(不動産マネジメント論)／都市・環境政策論特講:1(SDGsと都市環境論)、2(地域ガバナンス論)、3(都市政策論)、5(地方自治論)

※ この他、演習科目(8単位)および修士論文(4単位)(修士論文で修了する場合)、特別研究科目(8単位)(社会人が研究報告書で修了する場合)の履修が必要です。

修士論文テーマ例 2023年度修了者

- ・均等法第一世代女性の個人化の過程と社会背景
～客室乗務員出身へのインタビューから見てくるもの～
- ・住民による地域資源の活用からみた都市型コミュニティの可能性
～横浜市地域まちづくり推進条例に基づく地域まちづくり組織を事例に～
- ・障がい福祉事業体のマネジメント
～地域 CSR による福祉支援システムの構築～
- ・コロナ禍における観光者の環境配慮行動の要因
～首都圏内居住者の個人旅行を対象に～
- ・現代日本社会における就職活動と「私」
～就職活動において外見を整えることの意味～
- ・医学生の解剖実習経験と死生観に関する社会学的考察の試み
～インタビュー調査を通して～
- ・路線別の地区特性を考慮した横浜市における人口動態とその要因に関する研究
- ・廃校活用における用途の数とその運営の実態
～複数の主体が関与する事例に着目して～
- ・ムスリム女性をめぐるメディア言説の変容:日本の新聞社説に着目して
- ・被災マンションの迅速な再生に関する研究
～自主建替えに着目して～
- ・会話分析に基づく日常会話の中の他者修復戦略に関する事例分析
～日中会話を対象とする～
- ・放課後児童クラブに通う児童の地域との関わりからみる地域愛着に関する研究
～児童と第三の大人との接触に着目して～

積極的に行われるフィールドワーク



都市社会文化研究科では、各教員の専門分野に即して、現場で学ぶ機会を大切にしています。
また、学際的で社会人や留学生も多いことから、多様な立場での学生間の議論も活発に行われています。



YCU Minatomirai Satellite Campus

みなとみらいサテライトキャンパス

2020年4月に横浜ランドマークタワー7階産学連携イノベーション拠点に開設された「横浜国立大学みなとみらいサテライトキャンパス」でも授業を行うことで、金沢八景キャンパスとは異なる環境での学びを実現しています。



活発な学際的議論



学外向けのアドバンストエクステンション講座(公開講座)などの特別講義も行っています。第一線で活躍するゲスト講師と担当教員との対談形式で行うことで、現代社会が抱える様々な課題について、実践と理論の両輪で理解を深めることができます。



オンラインを活用した授業でも、学生間の活発な議論を促しています。

持続可能な地域社会プログラム（平日夜間 + 土曜日開講プログラム）

ポストコロナの時代に求められるあらたな人材育成として、幅広い基礎学力に支えられているからこそその実践を大切に、社会で、そして地域で実践できる人材の育成を目指したプログラムを2021年4月よりスタートしました。

プログラムの特徴

- 人文科学, 社会科学, 法学, 社会工学, 人間科学など様々な分野を学際的に学ぶ
- 現代社会の問題を知り、解決・予防する方策を学び、実践する力を身に付ける
- 原則、平日は夜間の遠隔授業、土曜日等は午前・午後の対面授業でプログラム修了

目指す地域社会

- 有限な資源を大切に、誰もが安心して安全に暮らせる地域社会
- 市民、行政、民間企業、NPO、専門家等がそれぞれの責任を果たし、連携により築き上げる地域社会
- 文化、芸術、歴史等、地域特性を活かした、グローバル社会に対応した地域社会
- 理論に基づいた知見を基に実践し、暮らしの質の向上を目指す地域社会

学際的な研究会の開催

2021年度より「PPP・PFI研究会」が発足致しました。2023・2024年度は(財)民間都市開発推進機構から「PPP手法を用いた公的不動産マネジメントによるまちづくりの研究」というテーマで外部資金が採択され、実践的な研究に取り組んでいます。このほか、ジェンダー研究会や都市社会文化研究会など、研究科の教員・学生が参加する研究会を開催しています。

授業科目

※前期・後期課程とも、指導教員からの研究指導を受けます(演習・特別研究(前期)、研究演習(後期))。

指導を担当可能な教員は教員紹介を参照してください。

※この情報は、2024年度のものであります。開講状況は変更になる場合があります。

博士前期課程

総合研究科目

2024年度テーマ例

・ SDGs の基礎と実践 ・ 研究と方法論 ・ 科学的研究法と測定法 ・ 都市デザインと創造都市

特講基礎科目

人間科学論特講

現代倫理学 教育心理学
発達心理学 現代哲学

言語文化論特講

コミュニケーション論 アメリカ文化論
ヨーロッパ文化論 イギリス文化論
日本文化史 応用言語論 日本文化論

社会文化論特講

アジア文化論 多文化共生論
エスニシティ文化論 欧米社会論
文化人類学 日本社会史

まちづくり論特講

都市計画論

都市・環境政策論特講

SDGsと都市環境 地方自治論

国際関係論特講

途上国開発論

特講展開科目

まちづくり論特講

都市解析論 市民まちづくり論
都市デザイン論 防災まちづくり論
不動産マネジメント論 都市空間形成論

都市・環境政策論特講

地域ガバナンス論
都市政策論 環境論
公共政策論

地域社会論特講

地域精神保健論 ライフコース論
教育行政論 メディア社会論
福祉社会論 社会理論

社会経済論特講

NPO論 共生社会の地理学
都市ビジネス論 経済政策研究
観光政策論

海外地域論特講

文化交流史 アジア地域論
アジア社会史 イスラーム地域論
欧米社会史

国際関係論特講

グローバル政治論 グローバル経済論
国際機構論 グローバル平和論
国際関係論

博士後期課程

多分野交流演習

人間科学論攻究(1～8)

都市科学論攻究(1～6)

地域社会文化論攻究(1～9)

国際社会論攻究(1～7)

都市社会論攻究(1～8)

研究演習



SDGs のコンセプトに対応する授業



	1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 健康と福祉を	4 みんなに質の高い教育を	5 ジェンダー平等を	6 安全な水とトイレを世界中に	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさを守ろう	16 平和と公正を	17 パートナリシップで目標を達成しよう
中西 正彦	まちづくり論特講1 (都市計画論)										●						
後藤 寛	まちづくり論特講2 (都市解析論)		●	●				●	●	●	●	●					
三輪 律江	まちづくり論特講3 (市民まちづくり論)		●	●	●						●						●
鈴木 伸治	まちづくり論特講4 (都市デザイン論)										●						
石川 永子	まちづくり論特講5 (防災まちづくり論)		●	●							●		●				●
齊藤 広子	まちづくり論特講6 (不動産マネジメント論)										●	●					
青 正澄	都市・環境政策論特講1 (SDGsと都市環境)	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
新垣 二郎	都市・環境政策論特講5 (地方自治論)										●						●
大島 誠	都市・環境政策論特講3 (都市政策論)											●					
阿内 春生	地域社会論特講 3 (教育行政論)			●													
浮田 徹嗣	休講	●	●														
角田 隆一	地域社会論特講4 (メディア社会論)			●						●		●				●	
渡會 知子	地域社会論特講6 (社会理論)	●		●	●					●	●						
有馬 貴之	社会経済論特講5 (観光政策論)		●					●	●	●	●	●		●	●		●
乙坂 智子	海外地域論特講1 (文化交流史)												●				
小野寺 淳	海外地域論特講2 (アジア地域論)	●	●						●	●	●						
柿崎 一郎	海外地域論特講3 (アジア社会史)			●													
山崎 和美	海外地域論特講4 (イスラム地域論)			●	●					●						●	
山根 徹也	海外地域論特講5 (欧米社会史)	●								●						●	
上村 雄彦	国際関係論特講1 (グローバル政治論)	●	●				●	●		●			●			●	●
高橋 力也	国際関係論特講 3 (国際機構論)	●	●	●	●					●			●	●	●	●	●
西海 洋志	国際関係論特講 6 (国際関係論)	●	●	●	●					●			●			●	●
吉田 栄一	社会経済論特講2 (共生社会の地理学)	●	●					●		●							●
有馬 斉	特別研究 I															●	
山田 剛史	人間科学論特講2 (教育心理学)			●													
江上 園子	人間科学論特講 3 (発達心理学)	●		●	●												
川瀬 和也	人間科学論特講 4 (現代哲学)			●	●				●	●						●	●
佐藤 響子	言語文化論特講1 (コミュニケーション論)			●	●												
庄司 達也	言語文化論特講5 (日本文化論)			●	●					●						●	
平松 尚子	言語文化論特講 6 (ヨーロッパ文化論)			●	●					●							
土屋 慶子	演習			●	●												
中谷 崇	言語文化論特講2 (アメリカ文化論)	●		●	●					●						●	
松本 郁代	言語文化論特講3 (日本文化史)				●					●						●	
藤井 得弘	社会文化論特講 1 (アジア文化論)			●													
滝田 祥子	社会文化論特講2 (多文化共生論)			●	●					●						●	
坪谷 美歌子	社会文化論特講3 (エスニシティ文化論)	●	●	●	●		●			●						●	
金山 泰志	社会文化論特講 6 (日本社会史)			●												●	

※この表は、研究科専任教員の専門分野と「SDG s 17の目標」を概観・網羅させたものです。各教員が担当科目授業内で扱う「SDG s 17の目標」はシラバスを確認するようにしてください。

修了後の進路

2021年度～2023年度修了者

小田急電鉄株式会社
日本生命保険相互会社
株式会社電通西日本
株式会社読売広告社
トヨタ不動産株式会社
株式会社JTB総合研究所
株式会社時事通信社
三菱地所レジデンス株式会社

中国建設銀行
パーソルプロセス&テクノロジー株式会
社
LTEC株式会社
ディップ株式会社
株式会社GGハウスマネジメント
株式会社シンニチロ
公立大学法人横浜市立大学

横浜市役所
藤沢市役所
神奈川県教育委員会
東京医療保健大学
公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団
横浜市立大学大学院(進学)

活躍する修了生

多様性が尊重され、持続可能な社会の実現に向けて 将来活躍する準備ができる環境



新村 祐斗

博士前期課程 2016年度修了
現在：在シンガポール日本国大使館 専門調査員
(Researcher / Advisor in Political Affairs)

研究テーマ：東アジアの安全保障

国際政治を研究する上村ゼミに所属していました。ゼミではグローバルガバナンスや、世界での富の偏在をいかに解消していくかなど地球規模課題について皆で研究していました。私個人の研究テーマは東アジアの安全保障政策、具体的には日本と朝鮮戦争の関係、近年のパワーバランスの変化に伴う世界秩序の変化について研究していました。また、米国は深く東アジアの安全保障に関わっていますので、歴史的経緯やその時々の方針について、米国のナショナルアーカイブで分析することも多かったです。

現在の仕事内容や大学院での学びが活かされていると感じる点、当研究科の魅力を教えてください。

博士前期課程を修了後、2年間の民間企業での勤務と海外大学院留学を経て、現在は外務省専門調査員(政務担当)として、在シンガポール日本国大使館で働いています。仕事内容は、シンクタンクや有識者等との意見交換及び連携して情報収集をすること、そして、日本の外交政策の発信のために、セミナーや講演会の企画等を行っています。私の所属していた上村ゼミでは、フランス出身のギミール先生や当時、米国フルブライト招聘准教授として教鞭を取られていたフィルナー先生を交えてゼミが行われていました。仕事柄英語を使うことが非常に多いのですが、海外出身の先生方と喧々譁々議論し、多様な意見を学んだ経験は今でも仕事に役立っていると思いますし、YCUで学ぶことの大きな魅力だと思います。また、当時は、負荷のかかる作業でしたが、修論を英語で執筆した経験も今の仕事にかなり活かされていると思います。YCUにはWriting Centerがあり、サポート体制も整ってます。

コロナ禍においても一歩先に進むために

研究テーマ：都市部高齢者における家庭外共食の成立要件に関する研究

家庭外共食に着目し、一般高齢者におけるまち資源との関わりを互助・共助の関係構築という観点から追及した研究です。共食(きょうしょく)とは、人と共に食事をするものですが、家庭外共食は食の社会的側面を意味します。研究では、修士課程(横浜市立大学大学院医学研究科看護学専攻)で把握した一般高齢者の食への価値観や健康状態の知見を基盤に、地域に存在する家庭外共食を社会資源として捉えるため、その指標探索をし、GISを用いた資源配置の分析等を実施しました。これまで取り組んだ研究の一部は、農林水産省の共食政策エビデンスとして採用されました。

現在の仕事内容や大学院での学びが活かされていると感じる点、当研究科の魅力を教えてください。

私の基礎学問である看護学は、個や環境に迫っていきますが、環境を捉える視座が弱点だと感じていました。小家族化や近隣支援体制の脆弱化が進む日本において、新しい着眼点で高齢者ケアを推進していく必要がありますが、私の専門である医療職としての限界に至り、悩んでいたところ、指導教官(三輪律江先生)のご専門である乳幼児生活圏やまち保育の考え方に出会い、その知見を援用するためご相談し、異分野の私を受け入れていただきました。テーマであった「家庭外共食」という概念を多角的に捉え、医療・保健領域だけでなく他分野も横断的に捉えて発信していく必要があるという着想において、大きな力を得たと感じています。多分野の諸先生の前で説得力のある説明を求められるという経験は、大変貴重でした。都市社会文化研究科において、批判的思考も教えて頂きました。



山之井 麻衣

博士後期課程 2021年度修了
現在：学校法人青葉学園 東京医療保健大学
医療保健学部 講師



まちづくり論特講



中西 正彦
NAKANISHI Masahiko

【研究分野】
都市計画、住宅政策

都市計画の制度論・計画論の観点から、人口減少時代に対応した都市のビジョンの描き方、都市構造再編や住宅地再生等の研究および実践活動を行っている。実際の街に触れ、理論と実践の両面からの解決策導出を指導方針としている。

【担当科目】
[博士前期課程]都市計画論、演習
[博士後期課程]都市科学論攻究1、研究演習

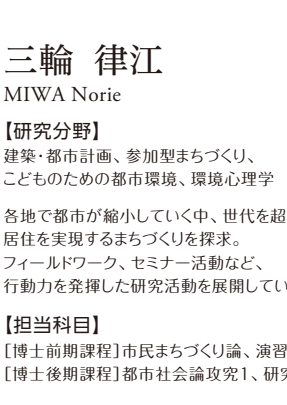


後藤 寛
GOTO Yutaka

【研究分野】
地理情報システム(GIS)、都市計画・都市解析

都市における面的な空間構造の分析・比較研究、さらには3次元GISのシステム構築と、それによるマイクロエリアマーケティング手法の開発など、さまざまな研究成果と研究方法を伝える。

【担当科目】
[博士前期課程]都市解析論、演習
[博士後期課程]都市科学論攻究5、研究演習

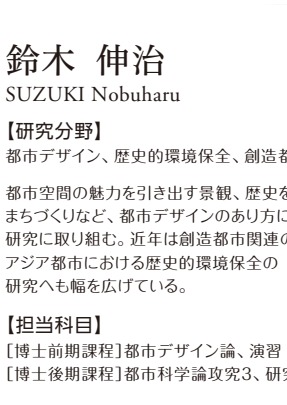


三輪 律江
MIWA Norie

【研究分野】
建築・都市計画、参加型まちづくり、こどものための都市環境、環境心理学

各地で都市が縮小していく中、世代を超えた居住を実現するまちづくりを探索。フィールドワーク、セミナー活動など、行動力を発揮した研究活動を展開している。

【担当科目】
[博士前期課程]市民まちづくり論、演習
[博士後期課程]都市社会論攻究1、研究演習



鈴木 伸治
SUZUKI Nobuharu

【研究分野】
都市デザイン、歴史的環境保全、創造都市

都市空間の魅力を引き出す景観、歴史を生かしたまちづくりなど、都市デザインのあり方について研究に取り組む。近年は創造都市関連の研究、アジア都市における歴史的環境保全の研究へも幅を広げている。

【担当科目】
[博士前期課程]都市デザイン論、演習
[博士後期課程]都市科学論攻究3、研究演習



石川 永子
ISHIKAWA Eiko

【研究分野】
防災・復興のまちづくり、住居学、インクルーシブ防災

地震・水害対策と土地利用、事前復興まちづくり、災害後の住環境(避難所・仮住まい・住宅再建)と被災者の生活や心理、インクルーシブ防災について、フィールドワークや実践を通して研究。

【担当科目】
[博士前期課程]防災まちづくり論、演習
[博士後期課程]都市科学論攻究2



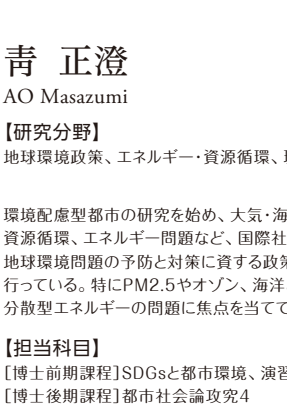
齊藤 広子 ※2025年度入試は学生募集停止
SAITO Hiroko

【研究分野】
不動産学、住環境マネジメント学
マンション管理学、すまいとまちのマネジメント

少子高齢化などにより、大きな転換が求められる現在の都市の政策や計画のなかで、住宅地・住宅・マンションなど、住まい・まちが抱える課題を抽出し、総合的、学際的、実践的に解決方法を導き出す研究や実践を行う。

【担当科目】
[博士前期課程]不動産マネジメント論、演習
[博士後期課程]都市科学論攻究6、研究演習

都市・環境政策論特講

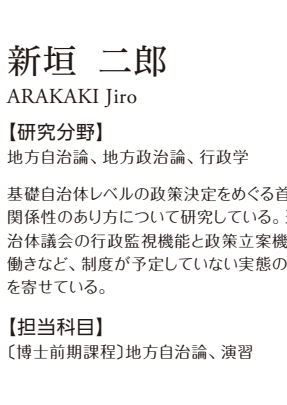


青 正澄
AO Masazumi

【研究分野】
地球環境政策、エネルギー・資源循環、環境協力

環境配慮型都市の研究を始め、大気・海洋汚染、資源循環、エネルギー問題など、国際社会が抱える地球環境問題の予防と対策に資する政策研究を行っている。特にPM2.5やオゾン、海洋ごみ、分散型エネルギーの問題に焦点を当てている。

【担当科目】
[博士前期課程]SDGsと都市環境、演習
[博士後期課程]都市社会論攻究4



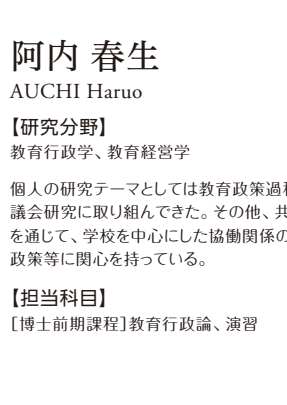
新垣 二郎
ARAKAKI Jiro

【研究分野】
地方自治論、地方政治論、行政学

基礎自治体レベルの政策決定をめぐる首長と議会の関係性のあり方について研究している。近年は、自治体議会の行政監視機能と政策立案機能の実際の働きなど、制度が予定していない実態の解明に関心を寄せている。

【担当科目】
[博士前期課程]地方自治論、演習

地域社会論特講

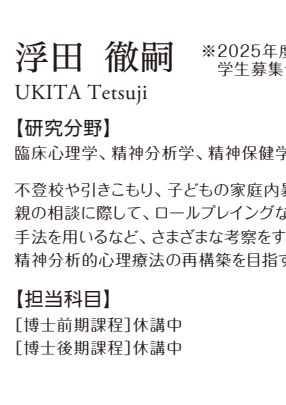


阿内 春生
AUCHI Haruo

【研究分野】
教育行政学、教育経営学

個人の研究テーマとしては教育政策過程研究、地方議会研究に取り組んできた。その他、共同研究などを通して、学校を中心にした協働関係の構築、教員政策等に関心を持っている。

【担当科目】
[博士前期課程]教育行政論、演習



浮田 徹嗣 ※2025年度入試は学生募集停止
UKITA Tetsuji

【研究分野】
臨床心理学、精神分析学、精神保健学

不登校や引きこもり、子どもの家庭内暴力に対する親の相談に際して、ロールプレイングなどの手法を用いるなど、さまざまな考察をするとともに、精神分析的心理療法の再構築を目指す

【担当科目】
[博士前期課程]休講中
[博士後期課程]休講中



渡會 知子 ※2025年度入試は学生募集停止
WATARAI Tomoko

【研究分野】
社会学(社会理論)

専門は理論社会学、とりわけ社会システム理論。ドイツの「ポスト移民社会」を主な調査対象としながら、包摂と排除、空間、体験、意味などについて理論的に考察している。

【担当科目】
[博士前期課程]社会理論、演習
[博士後期課程]地域社会文化論攻究9



角田 隆一
TSUNODA Ryuichi

【研究分野】
社会学(文化社会学、現代社会論、メディア社会論)

メディア文化、ポピュラー文化、映像文化を事例とした近現代社会論。近年は「写真の社会学プロジェクト」の実践と理論構築も重点的に進めている。

【担当科目】
[博士前期課程]メディア社会論、演習
[博士後期課程]地域社会文化論攻究6



教員紹介

社会経済論特講

有馬 貴之

ARIMA Takayuki

【研究分野】

観光地理学、観光政策論、観光教育

観光施設などのミクロな空間スケールから観光立国といったマクロな空間スケールまで、様々な空間スケールに合わせた状況把握手法、および政策やプランニングに関わるマネジメント手法について研究している。

【担当科目】

[博士前期課程]観光政策論、演習

[博士後期課程]都市社会論攻7



海外地域論特講

乙坂 智子

OTOSAKA Tomoko

【研究分野】

中国前近代政治史

おもに13世紀から17世紀にかけての中国とチベットとの関係を研究。当時の中国域においてチベット仏教が政治的に重視された理由などを考察。

【担当科目】

[博士前期課程]文化交流史、演習

[博士後期課程]地域社会文化論攻3 研究演習



小野寺 淳

ONODERA Jun

【研究分野】

都市地理学、経済地理学、中国研究

地理学的なアプローチによって、現代アジアのダイナミズムを考察する。理論的な検討を深めるとともに、フィールドワークによる資料収集や現地調査も行い、実証的な研究へと昇華することを重視する。

【担当科目】

[博士前期課程]アジア地域論、演習

[博士後期課程]国際社会論攻4、研究演習



山崎 和美

YAMAZAKI Kazumi

【研究分野】
イラン近現代史(女性史、教育史)
イスラーム地域(中東・北アフリカ・カフカス・中央アジア・南西アジアなど)研究

イランなどイスラーム世界の教育・女性・家族・子どもをめぐる諸問題について考察する。近現代イスラーム世界に関心を持つ学生が優れた論文を執筆できるよう指導する。

【担当科目】

[博士前期課程]イスラーム地域論、演習

[博士後期課程]地域社会文化論攻7



柿崎 一郎

KAKIZAKI Ichiro

【研究分野】

タイ地域研究、インドシナ交通論

交通という視点からタイを中心とする東南アジア大陸部の地域像の変容を解明する研究を行う。地域研究の手法で対象地域を多角的に研究することを重視する。

【担当科目】

[博士前期課程]アジア社会史、演習

[博士後期課程]地域社会文化論攻4、研究演習



山根 徹也

YAMANE Tetsuya

【研究分野】

西洋史

ヨーロッパ、特にドイツ近現代史を専攻。近代市民社会の形成過程において、社会構造と統治形態が変化する中、支配層と民衆がどのような動きをしていたかなどを調査・分析研究を行う。

【担当科目】

[博士前期課程]欧米社会史、演習

[博士後期課程]地域社会文化論攻5、研究演習



国際関係論特講

上村 雄彦

UEMURA Takehiko

【研究分野】
グローバル政治論、グローバル公共政策論、
グローバル・ガバナンス論

地球規模課題を解決し、持続可能なグローバル福祉社会を創造するために、グローバル・タックスなど必要な政策とガバナンス、実施主体に関する研究を行っている。(英語での開講可能)

【担当科目】

[博士前期課程]グローバル政治論、演習

[博士後期課程]国際社会論攻1、研究演習



高橋 力也

TAKAHASHI Rikiya

【研究分野】

国際機構論

国際連盟と国際連合を中心として、国際機構がどのような発展を遂げ、現代国際社会にいかなる影響を与えているかという問題について、主に歴史的な手法を用いて研究している。

【担当科目】

[博士前期課程]国際機構論、演習



西海 洋志

NISHIKAI Hiroshi

【研究分野】

国際関係論、国際政治思想、平和構築

国際秩序および国際社会の形成、維持、再構築に関する歴史的、理論的、哲学的研究を軸としている。また、「保護する責任」など、人道危機に対処するための国際的な取り組みについても研究している。

【担当科目】

[博士前期課程]国際関係論、演習



吉田 栄一

YOSHIDA Eiichi

【研究分野】
開発地理学、アフリカ研究、都市研究、
開発援助研究

途上国の地域開発(都市・農村)とその担い手(アクター)に関する研究。都市空間における社会的マイノリティに関する研究。

【担当科目】

[博士前期課程]途上国開発論、演習

[博士後期課程]国際社会論研究2、研究演習



人間科学論特講

有馬 斉

ARIMA Hitoshi

【研究分野】

倫理学

終末期医療の倫理問題(安楽死、尊厳死の是非)などを中心に、生命倫理、応用倫理学の研究をしています。講義や演習では、主に重要文献の輪読とディスカッションを行います。

【担当科目】

[博士前期課程]演習

[博士後期課程]人間科学論攻6、研究演習



江上 園子

EGAMI Sonoko

【研究分野】

発達心理学 家族心理学

「ヒトは一生をかけて発達を遂げていく」という生涯発達心理学の観点をもとに、人間の社会的な発達についての研究を行っています。殊に、親としての発達、養育信念と養育態度の関連などについて検討しています。

【担当科目】

[博士前期課程]発達心理学、演習



川瀬 和也

KAWASE Kazuya

【研究分野】

哲学

19世紀ドイツの哲学者であるヘーゲルの哲学と、現代の分析哲学における行為の哲学をベースに、「人が生きるとはどういうことか」という問題に哲学からアプローチすることを目指している。

【担当科目】

[博士前期課程]現代哲学、演習



山田 剛史

YAMADA Tsuyoshi

【研究分野】

教育心理学、心理統計学、教育評価・測定

一事例実験データへの統計的方法の適用、一事例実験のメタ分析の理論と応用、項目反応理論の教育研究への応用、文系学生のための心理統計教育、反転授業などアクティブラーニングの評価。

【担当科目】

[博士前期課程]教育心理学、演習

[博士後期課程]人間科学論攻3、研究演習



教員紹介

言語文化論特講



佐藤 響子
SATO Kyoko

※2025年度入試は
学生募集停止

【研究分野】
社会言語学

コミュニケーション活動の諸相を談話分析、言語とジェンダーの視点から考察する。
理論とデータを往復しながら言語使用の背後にある規範、社会のありようなどを考える。

【担当科目】
[博士前期課程]コミュニケーション論、演習
[博士後期課程]人間科学論攻究5、研究演習



庄司 達也
SHOJI Tatsuya

【研究分野】
日本近代文学

芥川龍之介をはじめとする大正期文学について、また、出版メディアと作家、読者、文学の関係性について研究。素朴な疑問や発想を侮らず、発見や気づきを大切にする研究態度を重視する。

【担当科目】
[博士前期課程]日本文化論、演習
[博士後期課程]地域社会文化論攻究1、研究演習

土屋 慶子
TSUCHIYA Keiko

※2025年度入試は
学生募集停止

【研究分野】
応用言語学、医療コミュニケーション、異文化コミュニケーション

語用論等の言語理論を応用し、社会的課題を読み解く。近年は、チーム医療や多言語コミュニケーションの場にて、人々がことばや視線、ジェスチャなどマルチモーダルな資源を用い、いかに他者との共同行為を行っているのかに注目している。

【担当科目】
[博士前期課程]応用言語論、演習
[博士後期課程]人間科学論攻究7



中谷 崇
NAKATANI Takashi

【研究分野】
現代アメリカ文学

アメリカ文学、特にWilliam FaulknerおよびJohn Updikeを中心とした現代（第一次世界大戦以降）の小説、批評理論、編集文献学。
制度としての「文学」を問い直すところにこそ文学はあると考えている。

【担当科目】
[博士前期課程]アメリカ文化論、演習
[博士後期課程]人間科学論攻究8



平松 尚子
HIRAMATSU Naoko

【研究分野】
フランス語文学、外国語教育

20世紀フランス語圏文学、特にマルグリット・ユルスナール著作における東洋思想の影響について研究している。またフランス語教育を中心とした外国語教育に関する実証的研究に取り組んでいる。

【担当科目】
[博士前期課程]ヨーロッパ文化論、演習



松本 郁代
MATSUMOTO Ikuyo

【研究分野】
日本文化史

日本における文化・思想史の研究を行う。
特に中世の歴史史料や絵画、文学や聖教資料などの分析を通じてどのような時代的特質が見出されるのか、多角的な視点から考察する。

【担当科目】
[博士前期課程]日本文化史、演習
[博士後期課程]地域社会文化論攻究8、研究演習

社会文化論特講



金山 泰志
KANAYAMA Yasuyuki

【研究分野】
日本近現代史

メディア史や文化史の視角から、近代日本における中国観（対中感情）の実証的把握を試みる。近代日本の他国・他者認識を問い直すことで、より良い国際関係（主に日中関係）を模索する。

【担当科目】
[博士前期課程]日本社会史



滝田 祥子
TAKITA Sachiko

【研究分野】
社会学

国境を超えた人の移動を社会的に分析し、多文化共生の可能性を探る。エスニック・マイノリティの記憶の構造への関心から、個人が協働して社会を築いていく共生のあり方を模索する。

【担当科目】
[博士前期課程]多文化共生論、演習
[博士後期課程]国際社会論攻究3、研究演習

坪谷 美欧子
TSUBOYA Mioko

【研究分野】
社会学

国際移民の社会学の中でも世界に広がる中国人の移動現象を中心に、移民集団のナショナル／エスニック・アイデンティティについての研究を行う。

【担当科目】
[博士前期課程]エスニシティ文化論、演習
[博士後期課程]国際社会論攻究5、研究演習



藤井 得弘
FUJII Tokuhiko

【研究分野】
中国文学

中国近代における、異文化との接触によって生じた中国人のものの考え方や想像力の変化について、文学などを通して考察すること。とくに裁き物や探偵小説とその周辺に注目している。

【担当科目】
[博士前期課程]アジア文化論、演習



在学生からのメッセージ

挑戦と発見の場所

▼張 蓉蓉 博士前期課程2年 東京経済大学・経済学部・国際経済学科

私は他大学を卒業し、YCUの都市社会文化研究科に入学しました。ここでは、多様なバックグラウンドを持つ仲間と出会い、先進的な研究に触れることができます。私がこの大学を選んだ理由は、単に学問を深める場所としてではなく、多様な考え方や文化に触れ、自分の視野を広げられる場所だからです。研究だけに留まらず、学生一人ひとりの夢や目標に向かって、全力でサポートしてくれる環境があります。YCUでは、学問的探求はもちろん、社会に対する貢献や実践的なスキルも身に付けることができます。自分自身の限界を超えて、新しい可能性に挑戦したい方には、最適な場です。



研究テーマ:化粧品広告における規範的女性像・男性像の構築と伝達についての考察

2023年度 前期時間割

	月	火	水	木	金	土
1						
2						
3	演習I (対面)					総合研究科目1: 前期前半 (対面)
4		大学院特別講義 (対面)				総合研究科目1: 前期後半 (対面)
5						
6		海外地域論特講I (対面)			言語文化論特講I (対面)	
7						

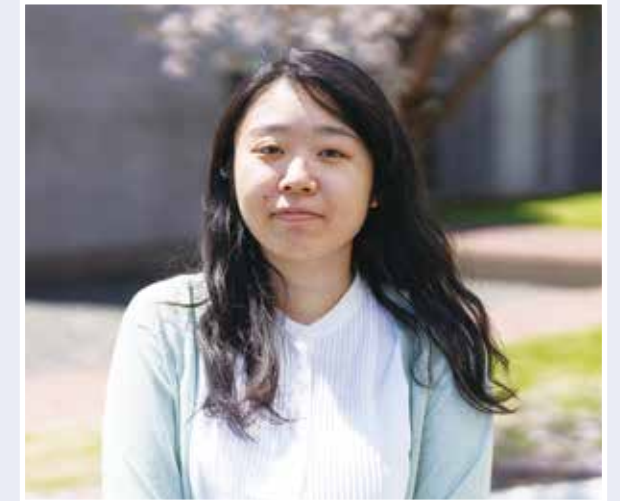
後期時間割

	月	火	水	木	金	土
1						地域社会論特講4 (対面)
2						
3	演習II					
4		地域社会論特講6 (対面)			社会文化論特講1 (対面)	
5						
6		都市・環境政策特講3 (オンライン)			言語文化論特講4 (対面)	
7						

様々な学生に出会い、分野を超えた交流のできる場所

▼山口 友理香 博士前期課程2年 横浜市立大学国際教養学部国際教養学科

私は早期履修制度を利用して学部4年生から大学院科目を履修しつつ、2023年3月にYCUを卒業し、大学院へ進学しました。研究の軸はイスラーム地域研究と社会学です。そのため、分野を横断しつつ学ぶことのできる本研究科に進学しました。本研究科の魅力は、少人数制で様々な研究をしている方と同じ授業を取ることができることです。自身の分野を研究しているだけでは出会えない視点を持つことができたり、様々な方と交流を持つことができたりします。社会人学生の方もあり、ディスカッションの際には新たな知見が得られることも多いです。また、先生方の指導も手厚く、研究を進める上で相談できる先生が多いことも魅力的です。



研究テーマ:日本におけるニューカマー・ムスリム家庭の若者:ムスリムの持つ自己認識の多様性に着目して

2023年度 前期時間割

	月	火	水	木	金	土
1						
2		副演習I (対面)				
3		演習III (対面)				
4						
5						
6	言語文化論特講3 (対面)	海外地域論特講1 (対面)			言語文化論特講1 (対面)	
7						

後期時間割

	月	火	水	木	金	土
1						地域社会論特講4 (対面・オンライン)
2		副演習II (対面)				
3						
4		地域社会論特講6 (対面)				
5						
6					演習IV (オンライン)	
7						



「横浜」を舞台に様々なアプローチから都市を学べる場

▼長縄 旺介 博士前期課程2年 横浜市立大学 国際教養学部 国際教養学科

本学の学部生4年次にて早期履修制度を活用し、大学院へ進学しました。私が興味を持っていた都市デザインや地域コミュニティについて、より専門的な知識を得るために、日々学習や研究に励んでいます。

本研究科の魅力は、大都市であり様々な環境や課題を抱える横浜市を主な舞台として、都市について横断的かつ深く学べることです。授業では、事例の視察やプロフェッショナルの方からお話を伺える機会も多く、自身の研究だけでなく今後の進路を検討する上でも大変参考になっています。また、在籍する学生の年代や専門分野も幅広く、学生間での意見交換を通じた学びを得ることができるのも、本研究科ならではの感覚です。

研究テーマ:「小高い」の展開が地域コミュニティの形成に与える影響について

2023年度 前期時間割

	月	火	水	木	金	土
1						
2			社会経済論特講5 (対面)			総合研究科目1: (対面)※聴講
3						総合研究科目1: (対面)※聴講
4						
5	まちづくり論特講2 (対面)	社会文化論特講6 (対面)				
6			まちづくり論特講4 (対面)※聴講			
7			演習III (対面)			

後期時間割

	月	火	水	木	金	土
1						まちづくり論特講3 (対面)※聴講
2						
3						
4						
5						
6						
7			演習 (対面)※聴講			



発展途上国および世界各国の都市開発の将来に役立つ講義

▼MUHAMMAD AINUN FIKRI 博士後期課程1年 HASANUDDIN大学 都市・地域計画

インドネシアの大学を卒業した後、横浜市立大学で博士前期課程を修了し、現在は博士後期課程に進学しています。インドネシアやASEAN諸国の都市開発および都市問題の改善には、日本から経済面だけではなくモデルや技術など多くのものを取り入れています。修士論文では日本の都市再生特別地区に関する研究をして、博士後期課程でも都市再生をテーマに研究を続けています。これからインドネシアでは都市再生が大事になって来ると思うので、日本の都市政策と市民まちづくりについて授業で学びたいと思っています。特に横浜市は、インドネシアの都市と同じ様に港湾都市であるため、インドネシアでの実施に適している傾向にあると思い、重点的に勉強していきたいと考えています。

研究テーマ:東アジア型の都市再生の実態と要件に関する研究

2023年度 前期時間割

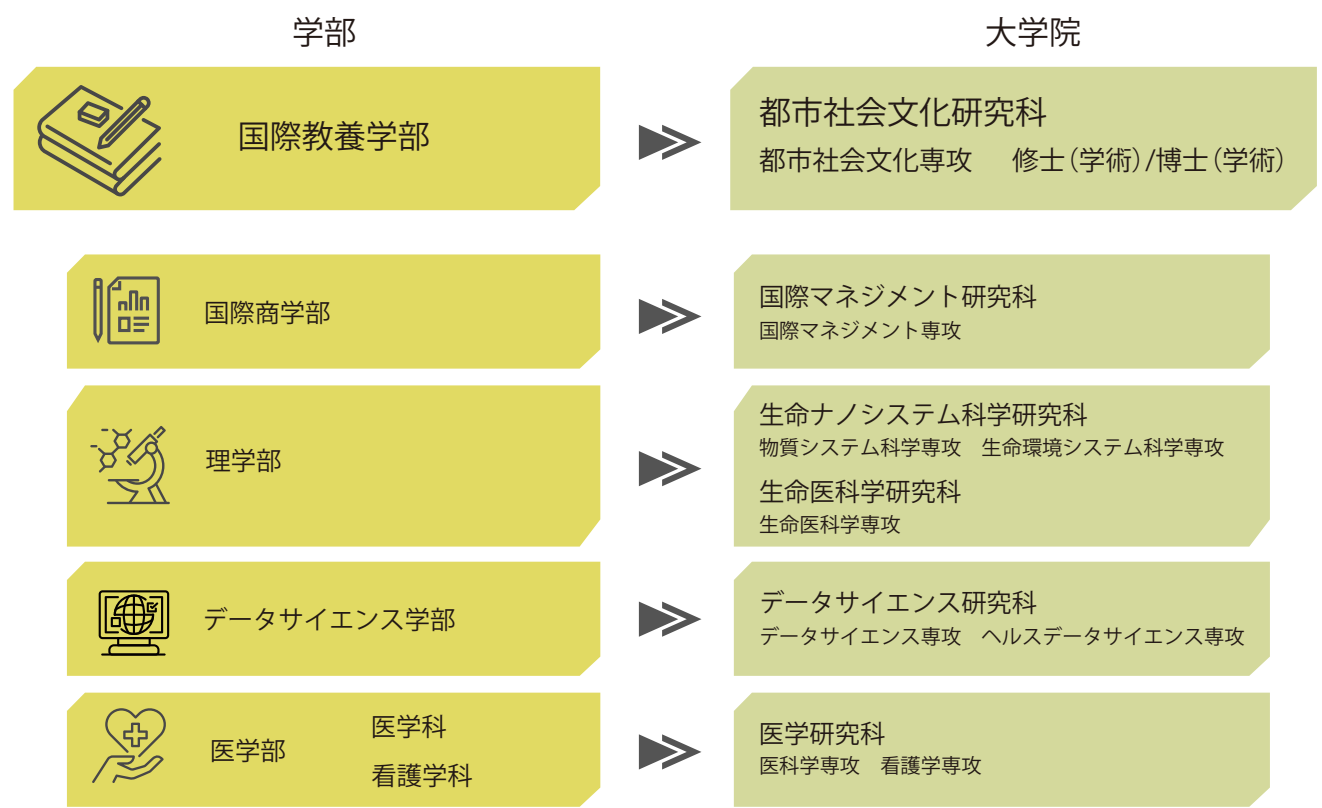
	月	火	水	木	金	土
1			研究演習I			
2						
3						
4						多分野交流 演習
5						
6	都市科学論攻究5					
7		都市科学論攻究I				

後期時間割

	月	火	水	木	金	土
1						都市科学論攻究1
2						
3						
4						
5						
6						
7		研究演習II				

入試情報

学部・大学院構成



2025年度 都市社会文化研究科入試日程								
課程	専攻	入学定員	区分	募集人員	出願期間	入試	合格発表	入学手続期間
博士前期	都市社会文化専攻	20	学内推薦	若干名	8月5日(月)～7日(水)	9月14日(土)	9月27日(金)	10月7日(月)～9日(水)
			第1期※	10	8月5日(月)～7日(水) 必着	9月14日(土)	9月27日(金)	10月7日(月)～9日(水)
			第2期※	10	1月6日(月)～8日(水) 必着	2月8日(土)	2月21日(金)	3月3日(月)～3月5日(水)
博士後期	都市社会文化専攻	3	※	3	1月6日(月)～8日(水) 必着	1月23日(木) ※書類審査	1月31日(金)	-
						2月8日(土) ※口述試験	2月21日(金)	3月3日(月)～3月5日(水)

※出願資格区分は、一般選抜/外国人特別選抜/社会人特別選抜があります。出願資格に関する詳細は、学生募集要項で確認してください。

選抜方法

課 程	試 験 科 目
博士前期課程(第1期・第2期共通)	筆記試験(共通問題・専門科目)及び口述試験
博士後期課程	【第1次選抜】書類審査 【第2次選抜】口述試験



都市社会文化研究科入試結果

〈博士前期課程〉

年度	課程	専攻	区分	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
2024年度	博士前期課程	都市社会文化専攻	学内推薦	若干名	8	8	8	8
			第1期※	10	13	12	6	5
			第2期※	10	7	7	4	4
			合計	20	28	27	18	17
2023年度	博士前期課程	都市社会文化専攻	学内推薦	若干名	6	6	6	6
			第1期※	10	16	14	7	5
			第2期※	10	17	16	8	6
			合計	20	39	36	21	17
2022年度	博士前期課程	都市社会文化専攻	学内推薦	若干名	5	5	5	5
			第1期※	10	22	21	12	10
			第2期※	10	15	15	5	5
			合計	20	42	41	22	20

※全ての出願資格区分(一般選抜/外国人特別選抜/社会人特別選抜)を含みます。

〈博士後期課程〉

年度	課程	専攻	区分	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
2024年度	博士後期課程	都市社会文化専攻	※	3	3	3	2	2
2023年度	博士後期課程	都市社会文化専攻	※	3	3	3	3	3
2022年度	博士後期課程	都市社会文化専攻	※	3	5	4	3	3

※全ての出願資格区分(一般選抜/外国人特別選抜/社会人特別選抜)を含みます。

学 費

(単位:円)

項目		博士前期課程		博士後期課程	
		市内*2	市外	市内*2	市外
学 費	入学金*1	141,000	282,000	141,000	282,000
	授業料*1	535,800		535,800	
諸 会 費*3	学術研究会費	2,000		2,000	
	後援会会費	30,000		30,000	
納付金合計		708,800	849,800	708,800	849,800
入学時納付金合計		173,000	314,000	173,000	314,000

*1 入学金・授業料は2024年度の金額です。金額について改定場合があります。金額が改定された場合は、改定後の金額が適用されます。なお、授業料は分納(5月・10月)です。

*2 「市内出身者」とは、入学の日の1年以上前(2024年4月1日以前)から引き続き横浜市内に本人または扶養義務者が住所を有する者をいいます。

*3 本学の学術・研究・学生生活の充実や福利厚生を目的とした活動を行う各団体の会費となります。

入試説明会(オンライン)を実施します!

都市社会文化研究科の概要や入試概要についての説明会を年2回実施しております。
詳細は都市社会文化研究科のWEBサイトでご確認ください。

	実施予定日	内容(予定)
第1回	2024年5月23日(木)	・都市社会文化研究科の概要 ・2025年度入試概要 ・教員紹介 ・大学院生による院生生活紹介 ・分野別説明 ・入試相談
第2回	2024年11月7日(木)	

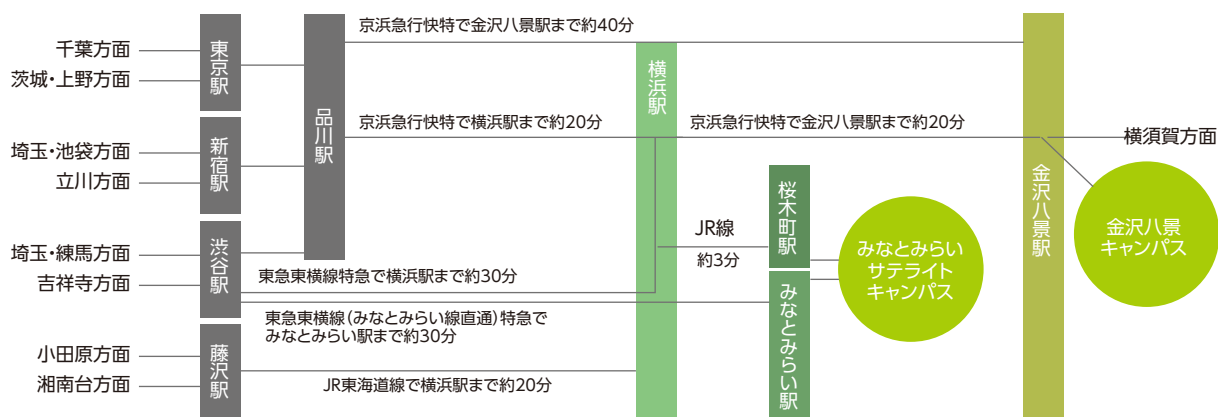
社会人にも学びやすい環境

半数近い授業科目を平日夜間及び土曜日に開講し、また修士論文によらない修了も可能とするなど社会人が学びやすい条件を整えています。

また、資格を満たしていれば、修業年数を超えて一定期間延長して計画的に教育課程を履修できる長期履修制度もあり、積極的に社会人を受け入れています。

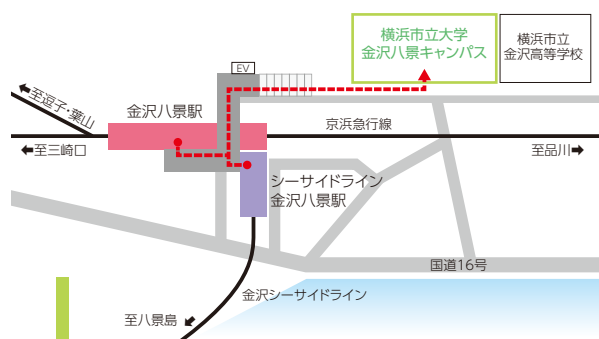


首都圏各地から金沢八景キャンパスおよびみなとみらいサテライトキャンパスまでの交通路線案内



記載の路線は代表的なもので、これ以外にもアクセス方法がございます。

都市社会文化研究科で主に利用するキャンパス



金沢八景キャンパス

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2
京浜急行「金沢八景駅」から徒歩5分
シーサイドライン「金沢八景駅」から徒歩5分



みなとみらいサテライトキャンパス

〒220-8107 横浜市西区みなとみらい二丁目2番1号
横浜ランドマークタワー7階
JR・市営地下鉄「桜木町駅」から動く歩道で徒歩5分
みなとみらい線「みなとみらい駅」から徒歩3分

YCUその他のキャンパス

鶴見キャンパス

〒230-0045 横浜市鶴見区末広町1-7-29
(生命医科学研究科など)

舞岡キャンパス(木原生物学研究所)

〒244-0813 横浜市戸塚区舞岡町641-12
(生命ナノシステム科学研究科など)

福浦キャンパス・附属病院

〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-9
(医学研究科など)

YCU
横浜市立大学

横浜市立大学大学院
都市社会文化研究科

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2

TEL:045-787-2055 FAX:045-787-2057

<https://www.yokohama-cu.ac.jp/urban/index.html>

